

## 政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

夢みらい 小川吉則 森田充 矢吹安子 戸崎 克司

(2) 実施日： 2026.2.16

### 【 1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

琵琶湖に面する自然環境、農業資源、歴史文化資源（例：彦根城周辺環境）を有しており、環境と健康の関係性を打ち出すポテンシャルは高い。

(2) 本市における課題

現状、本市は公共施設マネジメント、脱炭素推進、子育て支援、地域コミュニティ政策など、既存施策も多岐にわたるが「ワンヘルス」という統一理念のもとで体系化されているとは言い難い。

### 【 2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目：「ワンヘルス推進」の取組について

(2) 選定地 1：みやま市

### 【 3. 調査結果】

(1) 内 容

みやま市の取組概要

(1) 推進体制

みやま市では、福岡県のワンヘルス推進方針を踏まえ、市の環境政策・保健施策・農業振興施策を横断的に位置付けている。

庁内では関係部局が連携し、情報共有を図りながら事業を実施しており、

「環境政策を軸とした総合的な健康づくり」という形で理念を具現化している点が特徴である。

(2) 資源循環型社会の構築

みやま市は、ごみの徹底分別や再資源化の推進により、循環型社会の形成を先進的に進めている。特に、バイオマス発電事業や地域資源の有効活用など、環境負荷低減と地域経済活性化を両立する取組が展開されている。これにより、

- ・温室効果ガス削減
- ・生活環境の改善
- ・地域内経済循環

といった多面的効果が生まれている。

### (3) 動物との共生・啓発活動

動物愛護や適正飼養の推進を通じ、人と動物が共生する地域社会づくりを進めている。学校教育や地域イベントを活用した啓発活動を実施し、市民に対してワンヘルスの理念をわかりやすく伝える工夫がなされている。

理念を行政内部だけに留めず、市民理解へと広げている点は重要な視点である。

### (4) 食と農の連携

地産地消の推進、安全・安心な農産物の供給体制の確立など、農業政策と健康政策を連動させた取組を展開している。

持続可能な農業の推進は、環境保全のみならず、市民の健康増進にも資するものであり、ワンヘルスの理念を具体化する実践例といえる。

#### 主な成果

1. 部局横断的な施策展開により、政策効果の相乗効果が生まれている。
  2. 環境施策を軸とした分かりやすいメッセージにより、市民理解が進んでいる。
  3. 循環型社会の構築を通じ、地域ブランドの向上と対外的発信力を高めている。
- 理念を抽象論に終わらせず、具体事業と結び付けている点が最大の成果である。

#### 考 察

次のような課題も想定される。

- ・理念の継続的浸透（職員・市民双方）
- ・成果指標（KPI）の明確化
- ・専門人材の育成
- ・将来的な財源確保

理念型政策は、効果測定が難しい側面があり、今後は数値化や評価手法の確立が求められる。みやま市の取組は、ワンヘルスを新規施策として立ち上げるのではなく、既存施策を横断的に再整理し、統一理念のもとで再構築している点に大きな意義がある。

特に、

- ・循環型社会形成との連動
- ・市民啓発の工夫
- ・部局横断型体制の構築

は、本市においても応用可能である。

本市においては、まず既存の環境施策・健康施策・農業施策を整理し、ワンヘルスの視点で再編することが有効と考えられる。そのうえで、庁内連携体制の強化と市民への分かりやすい発信を行うことで、持続可能な地域社会の形成につなげていくことが重要であるといえる。

## 政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

夢みらい 小川吉則 森田充 戸崎克司 矢吹安子

(2) 実施日：2026年2月17日（火） 10時から11時30分

### 【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

財政が厳しい中でも、将来を見据えたキャリア教育の一つ一つの科目が、たとえば体験学習は実施されているが、他の取組はあまりなされていない現状にある。

(2) 本市における課題

子どもたちが将来、いきいきと働き、自分らしく社会で活躍することの大切さを理解し、深い「志」を育むための小中一貫のキャリア教育を学ぶために。

### 【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目：むなかた子ども大学の取組について

(2) 選定地1：福岡県宗像市

### 【3. 調査結果】

(1) 内 容

宗像市は、福岡市と北九州市のほぼ中間に位置し、世界遺産「神宿る島、沖ノ島と関連遺産群」を擁する歴史と豊かな玄界灘の幸に恵まれた魅力的な街です。

そこで、むなかた子ども大学について、様々な取組を宗像市役所内にて、議会事務局長の中野氏、教育部の南氏、堤氏、占部氏から説明を受けました。

本取組は、子どもたちの興味・関心を深掘りし『志』を育むことを目的に、①自己理解②職業理解③啓発的経験④意思決定・方策の実行力を促進し、子どもたちの発達段階に応じた主体的なキャリア形成の実現を目指すものです。

令和3年度メインキャンパスとして、市内在住の小学生を対象に21コースからスタート、その後メインキャンパスに参加できない子どもたちにも、本物からの学びの機会を提供する『特設講座』や『子ども大学の日』、『夏の課外授業』を順次展開されている。

令和6年度の開催実績は、市内に住む小学生の約5人に1人が応募。参加者の満足度が高く募集枠の123%の応募があり、そのうち18%が小学生である。『働くこと・人の理解』『社会的役割と意義』に対しても理解度の向上が見られる。

今後としては、コース内容の改善・見直し、多様化・複雑化する流れに適応した新期コースの開設や未就学児へのアプローチに力を入れていきたいと熱心に自信を持つ

て説明された。

## (2) 考察

子どもたちの夢を実現させたかのような「本物から学ぶ」「本物から体験する」経験は、子どもたちに大きな刺激や新たな気づきを与え、主体的に学ぶ姿勢を育み、将来の選択肢を増やすきっかけとなっている。メインキャンパスには約 35 の講座があり、1 つの会場で 1 つの授業を受けられ、バスで送迎も用意している。生涯学習、義務教育 9 年間を活用し、社会教育と一部家庭教育も含め未就学児や不登校児にも広げ、さらに、宗像市だけでは出来ないので北九州市、福岡県のベッドタウンのため広範囲の地域の人への展開がはかられている。子どもたちに将来の夢や目標を持ってほしいという教育長の強い思いのもと、大学・企業・行政が一体となって本物の学びや体験の機会を提供し、子どもたちの志を育む「誰一人取り残さない、宗像市独自のキャリア教育」を年間を通して実践されている。第 2 委員室に入った瞬間から説明して下さる職員の皆さんの笑顔に引きつけられ、むなかた子ども大学の取組が、キャリア教育推進連携表彰最優秀賞を受賞されたのは、一人一人の行政の皆さんの取組の努力とキラキラと輝く子どもたちの前向きな学習意欲が、認められた結果だと思います。

私たち議員も子どもたちのお手本となり、ともに学び向上していくことが大切だと強く学びました。